

(Japanese Academy of Learning Disabilities)



日本LD学会会報

第54号

事務局：栃木県カウンセリングセンター内

〒320-0851 宇都宮市鶴田町687-9 ムギショウビル2F TEL. 028-649-0090 FAX. 649-1213

URL. <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jald/>

日本の教育は どうなっていくのだろうか？

ナカガワエデュケーショナルクリニック

中川 克子

日本のLD教育にたずさわって四半世紀になる。良い方向に進んでいるのだろうかと毎年考えさせられる。確かに今LDを知らないという先生方は少ない、診断も受けやすい、個人ケアも得やすい、学校での対応も25年前を思えば雲泥の差である歩みは遅々としてでも前進していると信じたい。ただ教育全般を考えたとき、良い方向に前進しているとは信じがたい。教育の未来にむけてのしっかりとした目標が見えてこない。

日本の教育界の変わり身の遅さはわが国の諸事情を考えるとしかたのないことかもしれない。でもここ7, 8年のめまぐるしく変わる行政の対応は、泥縄式とさえ思えてくる。先生方の夏休み、冬休みが無くなった事などは何を目的とし、どんな良効果を考えているのだろうか。ただでさえ少ない夏冬休みの日本の先生はいつ、どこで充電すればよいのか。どう考えてもこれは教育を特別に重んじる国の政策とは思えない。教師を聖職者ととらえる気はさらさら無いが、ただの仕事では無い。資源の少ないわが国にとって教育を最大視し

なければ未来は無いと考えている。耳に心地よい言葉はあれこれと聴くが、教育現場となんとかけ離れていることか。現場を回る度にたくさんの熱心な優秀な先生にお会いする。彼らの持てる力を伸び伸びと振るうにはあまりに多くの些事、雑用に囲まれているように見える。私は根本的に教育制度、目的等を見直す、作り直す時がきていると考えている。諸外国に振り回されること無く、わが国に合った、未来を視野に入れた制度を作り直さないと先が見えてこない。親達は心配ではないのだろうか。先生方の長休無しをしらない親が沢山いてびっくりしたが、これなど行政と現場の遊離を示す一つではないだろうか。LDの子供たちにどれだけ個人ケアが増え、学校現場での対応が十分になっていっても教育全体がもっと前向きで、目標のしっかりした健康な具体的なものへ変わらないことには先へ繋がる、社会の一員として十分な質あるケアにはなっていくように思える。現在私の感じる危機感や焦燥感が私一人の思い込みであればどんなによいことかと憂慮している。